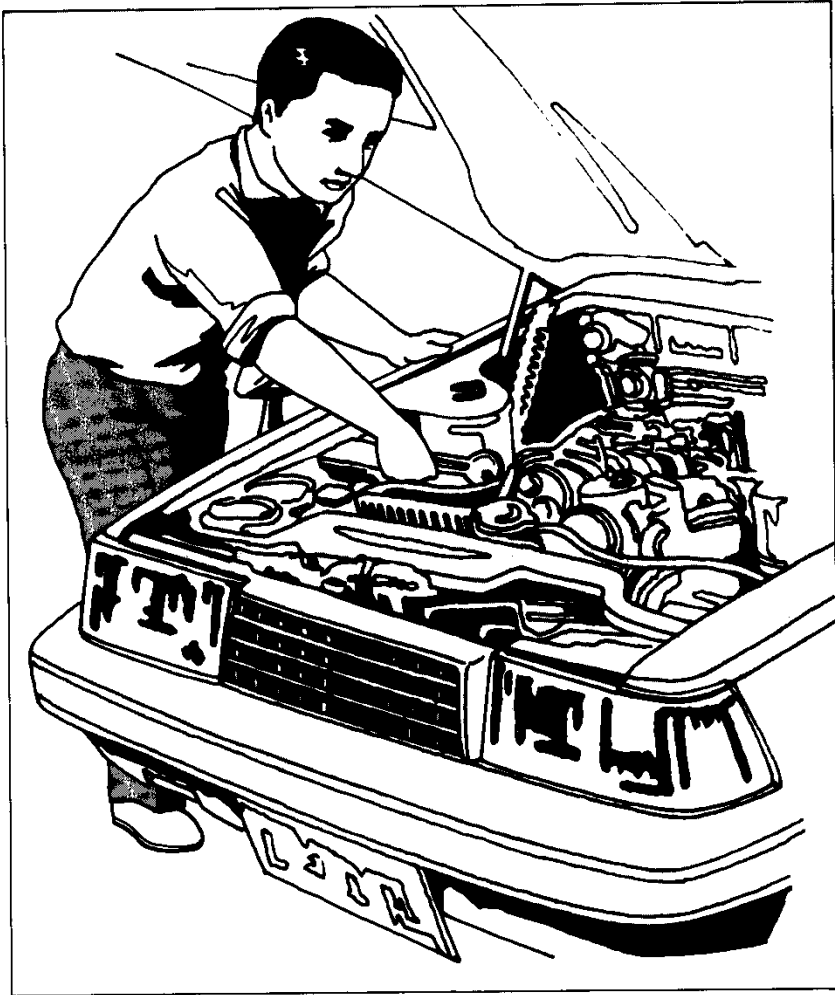


万一のときの処置

緊急時処置法



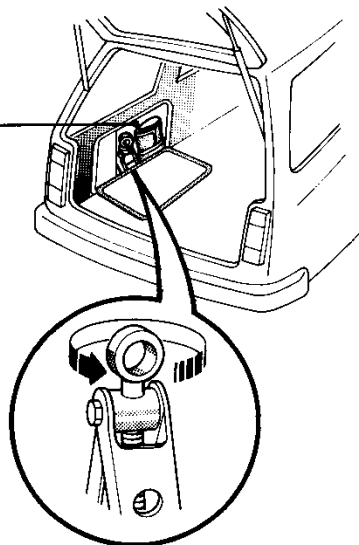
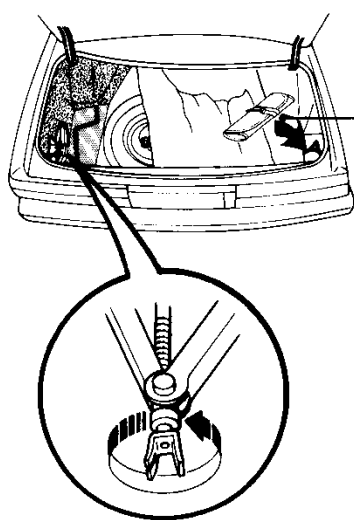
工具とジャッキ

それぞれの格納場所、工具の種類、ジャッキの使い方などを確かめておきましょう。

■格納場所

🚗 セダン/ハードトップ

🚗 ワゴン/バン



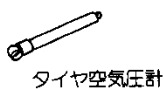
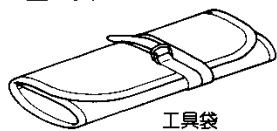
工具

1. トランク左右カバーの下に格納されています。
2. ジャッキは図のようにすると取り出せます。

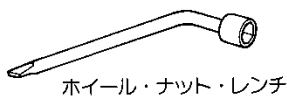
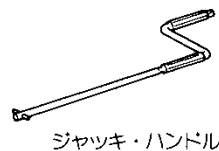
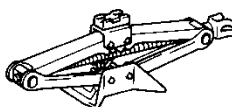
1. 荷室左側のカバーの内に格納されています。
2. ジャッキは図のようにすると取り出せます。

万一のときの処置

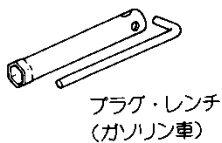
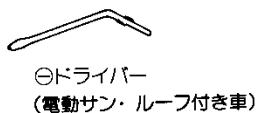
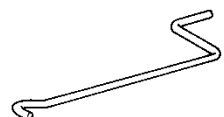
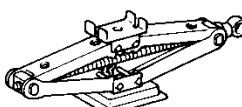
■工具、ジャッキ



セダン/ハードトップ/ワゴン



バン

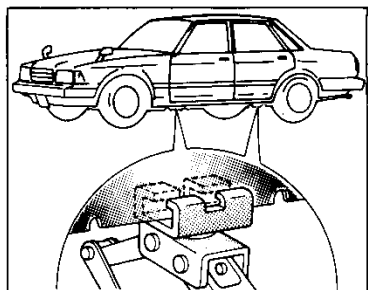


■ジャッキの使い方

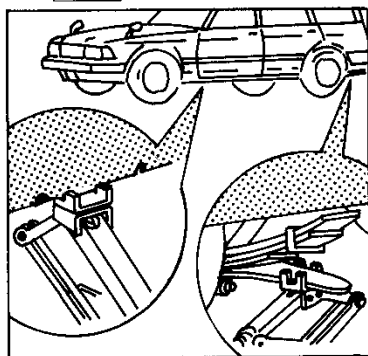
タイヤ交換およびタイヤ・チェーンを装着するときに使用します。

▶ジャッキをセットする位置

🚗 セダン/ハードトップ/ワゴン

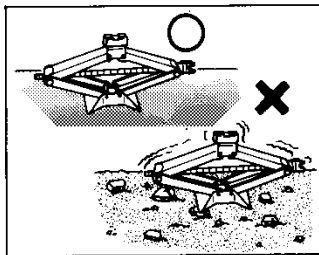


🚗 バン



▶ジャッキのかけ方

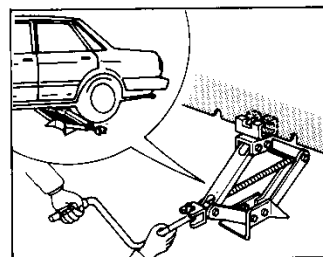
1. ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところにセットします。



人や荷物を車からちょっとおろしてください

2. ジャッキを手で回して、ジャッキ・セット位置まで上げます。

3. ジャッキが確実にジャッキ・セット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ・ハンドルを使用して、タイヤが地面から少し離れるまでジャッキ・アップします。



注意！ ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一ジャッキがはずれると大変危険です。

パンクしたときは——①スペア・タイヤ

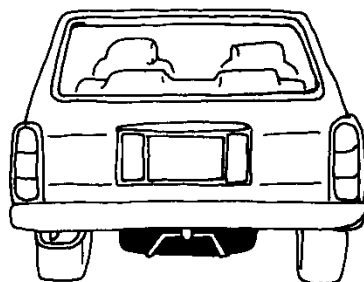


ちょっと一言

1. 作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。
2. パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早めにパンク修理してください。

🚗 ワゴン/バン

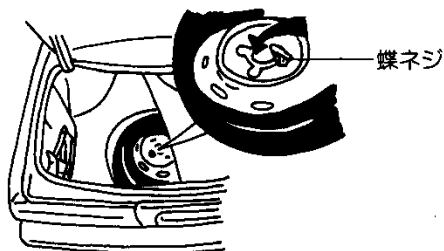
荷台床下部に格納してあります。



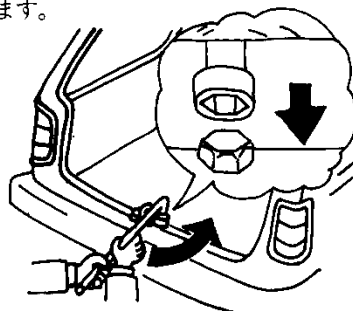
■格納場所

🚗 セダン/ハードトップ

トランクに格納されています。下図のように蝶ネジを左に回して取り出します。

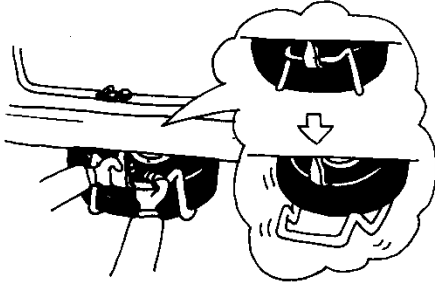


1. ホイール・ナット・レンチで床上のボルトを十分ゆるめます。



万一のときの処置

2. スペア・タイヤ格納具を少し持ち上げて、フックからはずします。



3. 格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろし、スペア・タイヤを取り出します。

■スペア・タイヤの種類

☞ 標準タイヤは

ワゴン/バン

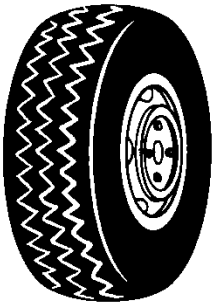
に装備されています。

☞ 応急用タイヤは

セダン/ハードトップ

に装備されています。

標準タイヤ



応急用タイヤ



▶応急用タイヤ

タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。



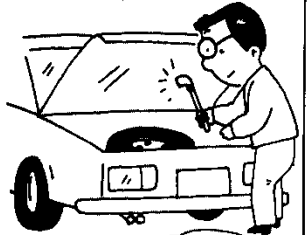
ちょっと一言

この応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く、また直径がやや小さくできています。したがってご使用になる場合は、右の注意事項を必ずお守りください。

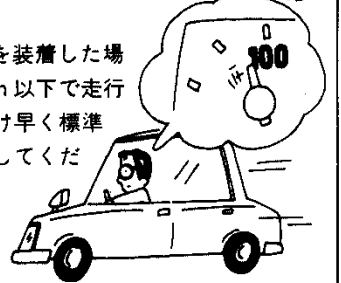


注意!

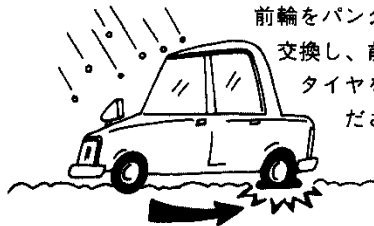
1. 応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。
空気圧: 4.2kg/cm²
(冷間時)



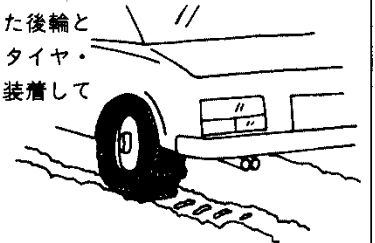
2. 応急用タイヤを装着した場合は、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。



3. 雪道、凍結路では後輪に応急用タイヤを使用しないでください。後輪がパンクした場合は前輪をパンクした後輪と交換し、前輪に急用タイヤを使用してください。



4. 応急用タイヤにタイヤ・チェーンを装着しないでください。後輪がパンクした場合は前輪をパンクした後輪と交換して、タイヤ・チェーンを装着してください。



5. 応急用タイヤを装着した場合、タイヤの直径が小さいため、車高が少し低くなります。突起物などをのりこえるときは標準タイヤ装着時と同じ感覚で運転しないよう注意してください。

6. この応急用タイヤとホイールはすべてマークⅡの専用品です。他のタイヤやホイールと組みあわせたりマークⅡ以外の車に使用しないでください。

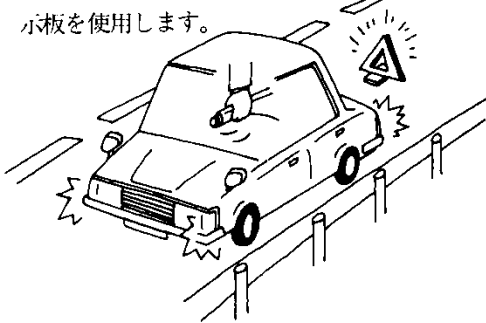


MARKⅡ
専用

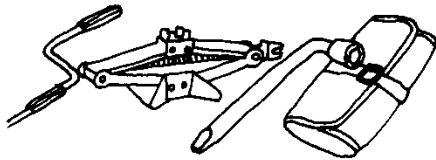
パンクしたときは——②タイヤ交換

■準備

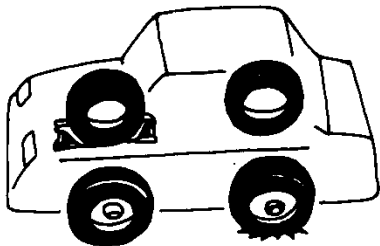
1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。



3. パーキング(駐車)・ブレーキをかけます。
4. 工具やジャッキを取り出します。

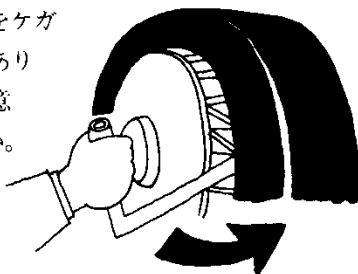


5. パンクしたタイヤと対角の位置にあるタイヤの前後に輪止め(搭載工具に含まれています)をします。



6. スペア・タイヤを取り出します。⇨85ページの「パンクしたときは——①スペア・タイヤ」を参照してください。

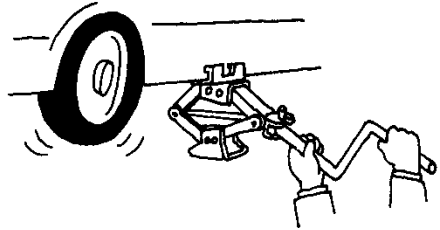
7. ホイール・キャップ、センター・キャップなどはずします。ホイール・ナット・レンチの柄の先を使うと楽にはずれます。直接手をかけて取ると指をケガすることがありますので注意してください。



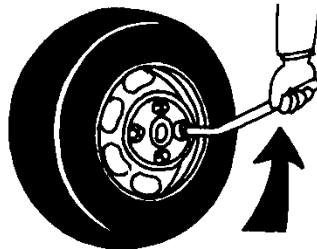
※アルミ・ホイール装着車は89ページを参照してください。

■ジャッキ・アップ

1. ジャッキをセットします。⇨85ページの「ジャッキの使い方」を参照してください。

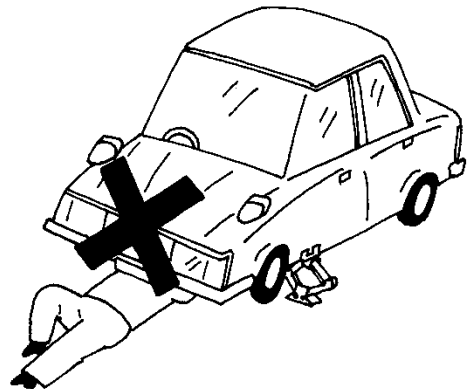


2. ホイール・ナット・レンチでナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



3. 車を、タイヤと地面が少し離れるまでジャッキ・アップします。

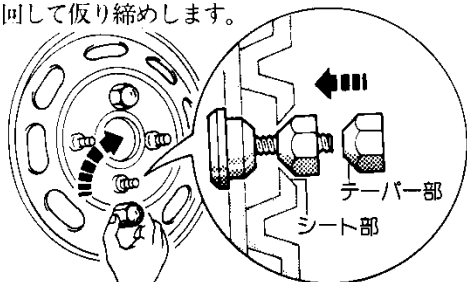
注意! 万一、ジャッキがはずれると大変危険です。ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。



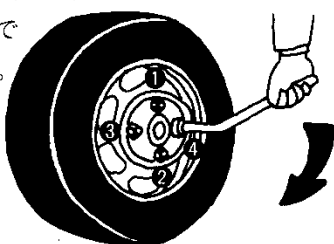
万一のときの処置

■タイヤ交換

1. ナットをはずし、タイヤを取り替えます。
2. ナットのテーパ部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮り締めします。



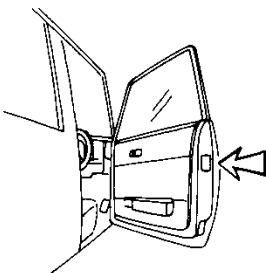
3. ジャッキを下げ、図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締めつけます。



注意!

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締めつけないでください。

4. ホイール・キャップやセンター・キャップなどを取りつけます。
タイヤのバルブ(空気口)に、ホイール・キャップの穴をあわせてください。
5. 取りつけたタイヤの空気圧を確認します。(図に示す運転席ドアに貼られている「タイヤ空気圧」の表を参照してください。)



注意!

1. 空気圧が不足している場合や調整ができないときは、ひかえめな速度で走行してください。
2. 空気圧が低いまま走行を続けると、高速走行時にタイヤが疲労しバースト(破裂)するおそれがあります。チューブレス・タイヤの場合は、タイヤとリムの密着が悪くなり、空気が漏れやすくなります。

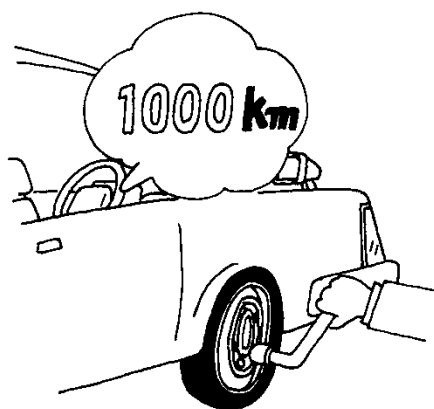
6. 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

タイヤを格納するときは確実に固定してください。



ちよつと一言

1. 応急用タイヤは標準タイヤがパンクしたときに一時的に使用するタイヤです。パンクしたタイヤは、ただちに修理して、応急用タイヤとつけ替えてください。
2. タイヤを脱着したときは、タイヤを取りつけて、1,000km走行後、再度ホイール・ナットを締めつけ、ゆるみがないことを点検してください。



注意!

1. タイヤ交換後、走行中ハンドルや車体に振動が出た場合はタイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
2. タイヤを新品と交換する場合は、トヨタ販売店で相談してください。異なった種類のタイヤを混ぜて使用したり、指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響をおよぼしますので、絶対にさけてください。
3. スペア・タイヤの空気圧の点検は、日頃から怠らないようにしてください。

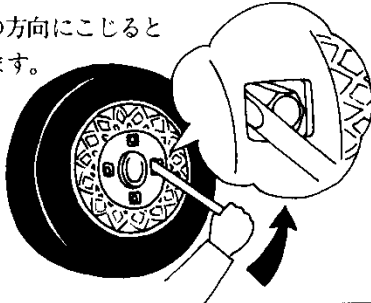
■ホイールの取り扱い方

▶アルミ・ホイール装着車

※LGツアリングに注文装備

●センター・キャップの取りはずし方

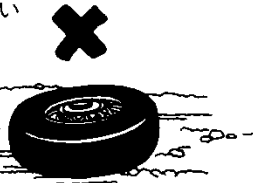
ホイール・ナット・レンチの柄の先をホイール・キャップの穴に差し込み、ホイール・ナットの頭部を支点にして矢印の方向にこじると楽にはずせます。



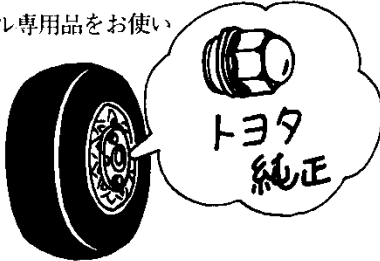
1. 直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。
2. ホイール・ナット・レンチ以外は使わないでください。

●アルミ・ホイールの取り扱い

1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くとホイール面を傷つけるおそれがあります。

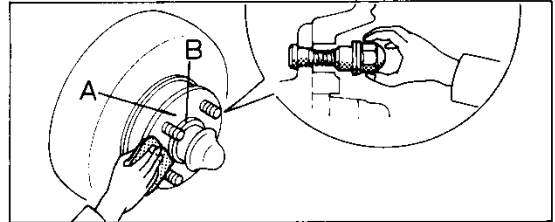


2. バランス・ウェイトおよびナットはトヨタ純正のアルミ・ホイール専用品をお使いください。

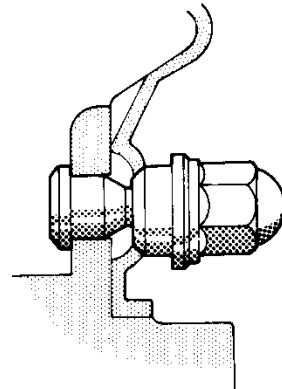


3. 傷、変形のあるアルミ・ホイールは再使用しないでください。

4. アルミ・ホイールを再び車両に取りつけるとき、図のA、BのよごれをきれいにふいてからBの部分を実にはめ、ホイール・ボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイール・ナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。



5. ホイール・ナットを締めすぎないように注意してください。
6. ホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンの装着はおすすめできません。雪道走行の予定があるときは、スチール・ホイールにつけ替えてください。取りつける場合、ホイール・ナットは下図のように取りつけてください。



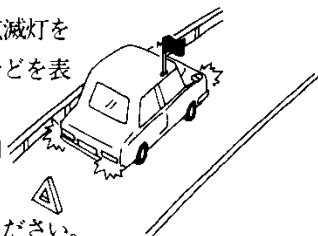
万一のときの処置



万一のときの処置

故障したら……

1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。
2. 高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板を置いてください。法律で義務づけられています。

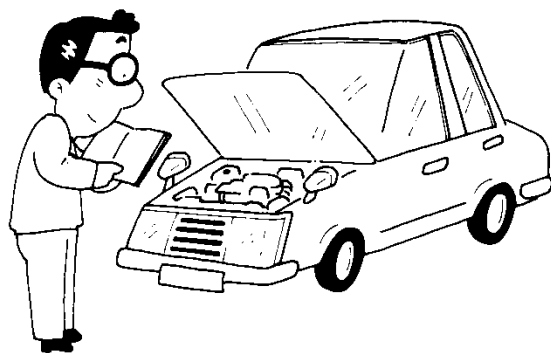


非常電話を利用する場合などは、安全な場所を歩くよう心がけてください。

ちょっと一言

▶夜間、休日の修理連絡先

「整備手帳」巻末のトヨタ・サービス網をご覧ください。



走行中、エンジンが停止したときは……

運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

1. ブレーキ・ブースター(ブレーキ倍力装置)が作用しなくなりますので、ブレーキ・ペダルを強く踏んでください。
2. パワー・ステアリング(ハンドル操作力軽減装置)付き車はパワー装置が動かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

走行中、車体床下に

強い衝撃を受けたときは……

ただちに車を止め、ブレーキ液の漏れや損傷を確認してください。損傷がひどい場合はトヨタ販売店で点検を受けてください。



エンストして始動できなくなったときは……

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押ししてもらってください。



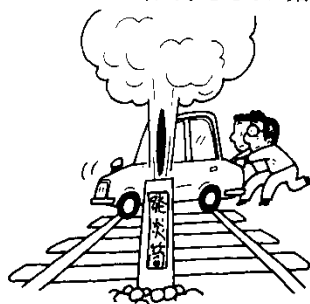
2. マニュアル(ギヤ式)・トランスミッション車はチェンジ・レバーの位置をセカンドまたはサードにいれ、クラッチを踏まずにエンジン・スイッチをSTARTの位置で保持すれば、車を動かすことができます。また、平担路の場合はトップにすると早く抜け出せます。



オートマチック・トランスミッション車はエンジン・スイッチで車を動かすことができません。

ちょっと一言

3. 踏切内で動かなくなり、脱輪などですぐ動かさない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

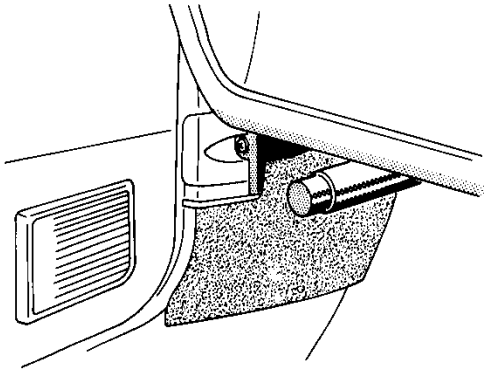


電車が来そうになったり、緊急を要する場合は発炎筒で合図してください。▶次ページ参照。

ちょっと一言

発炎筒の使い方

踏切内での故障など、非常時に使用します。



1. グローブ・ボックス左下部に備えつけてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。
使用方法は発炎筒のラベルに表示されています。
よく読んで万一に備えてください。
3. 有効期間はラベルに表示してあります。有効期間の
きれる前にトヨタ販売店でお求めのうえ、交換して
ください。



注意！



1. お子様にさわらせないでください。
2. 非常用信号としてのみご使用ください。
3. 使用中は筒先を顔や体に向けたり、
近づけたりしないでください。やけ
どの危険があります。
4. 発炎時間は約5分ですので、非常点
滅灯を併用するようにしてください。

こんな故障の応急処置は……

バッテリーあがりの処置は……

バッテリーあがりによりエンジン始動ができない場合、ブースター・ケーブル(別売)があれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

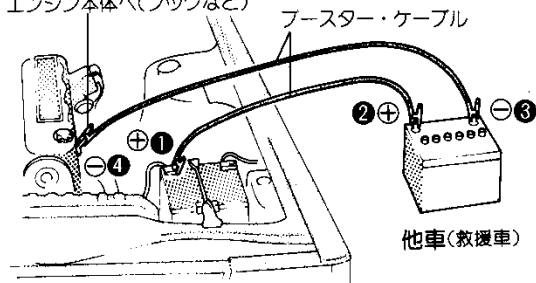


救援車は必ず12Vのバッテリーがついている車を使用してください。

1. ブースター・ケーブルを図の番号の順序に接続します。

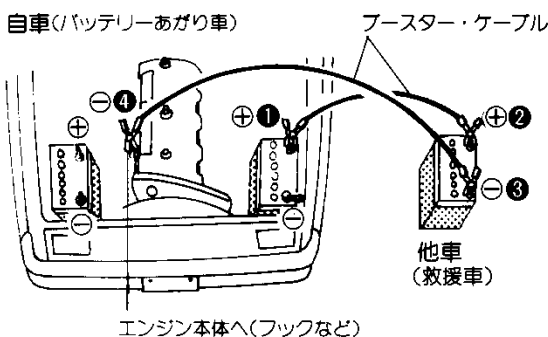
⊕⊖を間違えないようご注意ください。

自車(バッテリーあがり車)
エンジン本体へ(フックなど)



ディーゼル車でバッテリーが2個の場合

自車(バッテリーあがり車)



寒冷地向けのディーゼル車のバッテリーは2個ですが、24Vではありません。救援車は、必ず12V車を使用してください。



バッテリーとバッテリーを直接接続すると、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

④の接続はバッテリーから離れたエンジン本体にしてください。

2. 接続後、救援車のエンジン回転数を少し高めにしておきます。

3. 自車のエンジンが始動したら、取りつけたときと逆の順序でブースター・ケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやトヨタ販売店で完全充電してください。



注意!

- 絶対に押しがけによる始動はやめてください。
- ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
- ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。

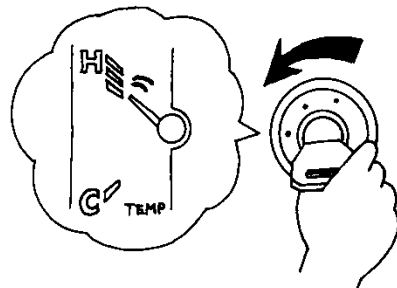
オーバーヒートの処置は……

1. 安全な場所へ車を止めてください。



2. エンジンをかけたままで、ボンネットをあげ、風通しをよくします。

3. 水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。



4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、Vベルトのゆるみを点検します。

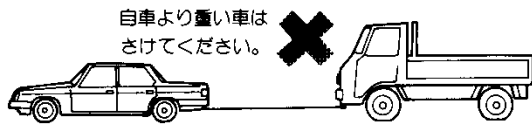
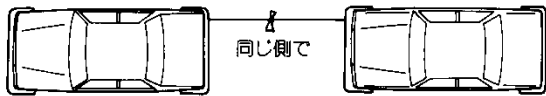
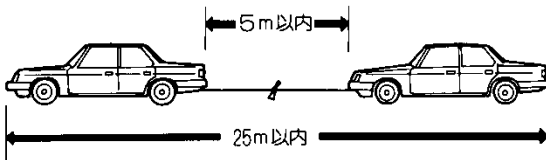


注意!

あわててラジエーター・キャップをはずすと、冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯が吹き出して思わぬやけどをすることがあります。

けん引するときは……

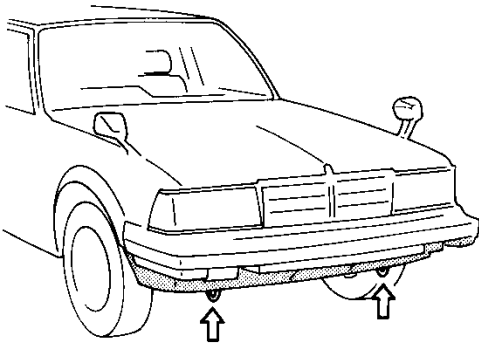
けん引は、下図の方法を守ってください。



※けん引される車は前の車の制動灯に注意して、常にロープをたるませないように気をつけてください。

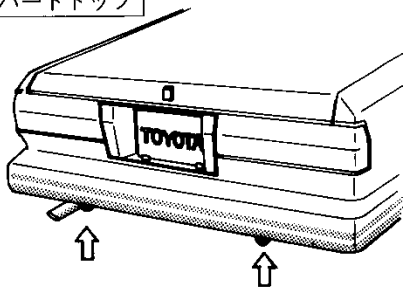
■ロープをかける位置

▶フロント側



▶リヤ側

セダン/ハードトップ



ワゴン

右側のフックはセダン、左側のフックはバンと同じ位置にあります。



注意!

1.けん引される車は、下記事項を厳守してください。

- チェンジ・レバーをNの位置にする。
- エンジン・スイッチをACCまたはONにする。
- けん引される速度は30km/h以下(オートマチック・トランスミッション車のみ)
- けん引される距離は80km以内(オートマチック・トランスミッション車のみ)

2.エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。

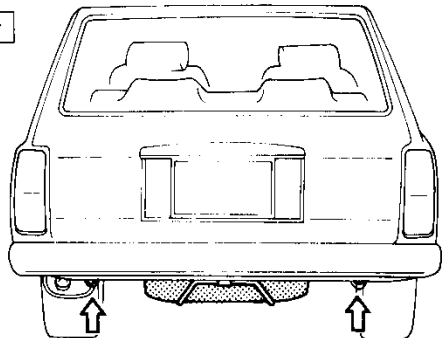
また、パワー・ステアリング(ハンドル操作力軽減装置)付き車はハンドル操作が非常に重くなります。できる限りエンジンを始動してけん引してください。

3.長坂路を下るときはブレーキが過熱して効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

4.次の場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

- エンジンが回っているのに車が動かない。または異常な音が出る。
- オートマチック・トランスミッション・フルードがない。

バン



けん引車は急発進、急停車をしないようにし、けん引される車はけん引車の制動灯に注意し、常にロープをたるませないように気をつけてください。



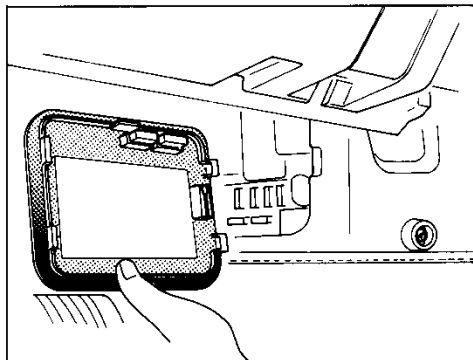
ヒューズが切れたときは……

各種のランプがつかないときや、電気系統の装置が動かないときは、ヒューズが切れているか、サーキット・ブレーカーが電流をしゃ断している場合があります。ヒューズ・ボックスの位置、ヒューズの受け持つ装置を知って自分で処置できるようにしておく便利です。

■ヒューズ・ボックスの位置

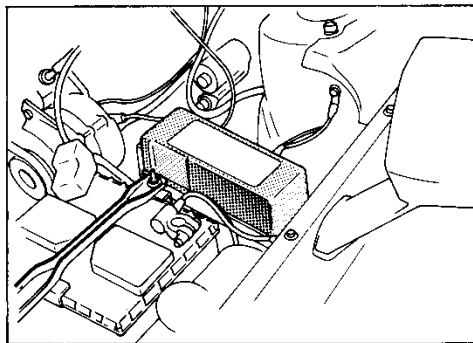
ヒューズ・ボックスは、運転席足元とエンジン・ルーム内にあります。

▶運転席足元のヒューズ・ボックス



運転席足元のヒューズ・ボックスの中には、ヒューズおよびサーキット・ブレーカーがあります。ヒューズおよびサーキット・ブレーカーの受け持っている装置は95、96ページを参照してください。

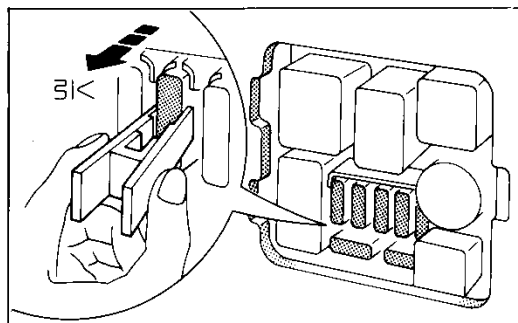
▶エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



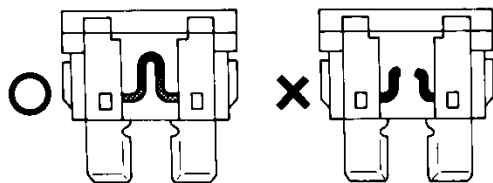
■ヒューズの交換

各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは次のように処置してください。

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜きます。(ヒューズはずしは、運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーについています。)



3. ヒューズが下図の右側のようにあれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。



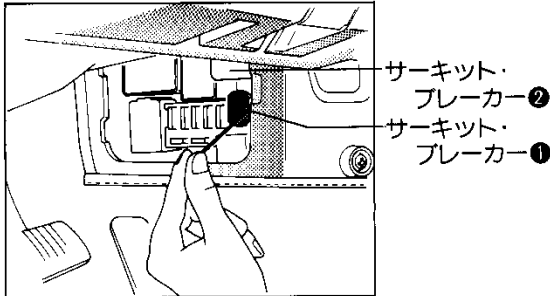
1. 取りつけてあるヒューズと同じ容量のヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱焼損の原因になります。
2. 取り替えてもまたヒューズが切れる場合は点検を受けてください。



エア・コンディショナー、フォグ・ランプが作動しないときはトヨタ販売店へご連絡ください。

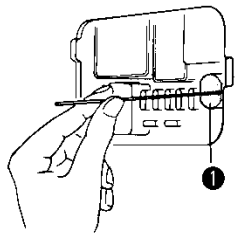
■サーキット・ブレーカー

サーキット・ブレーカーは、装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置です。



サーキット・ブレーカー②
サーキット・ブレーカー①

▶リヤ・ウインドウ・デフォグラー（曇り取り装置）が作動しないときは、サーキット・ブレーカー①の回路がしゃ断されています。



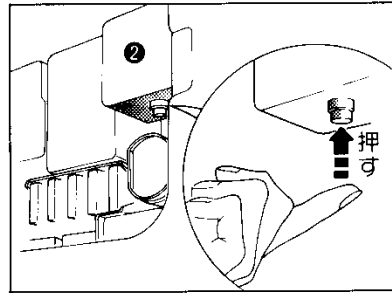
1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2. サーキット・ブレーカーの穴に細い棒をカチッという音がる位置まで、軽く差し込みます。
3. これでサーキット・ブレーカー①の回路が復帰します。



マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。

▶パワー（電動）・ウインドウ、電磁式ドア・ロック、電動サン・ルーフが作動しないときは、サーキット・ブレーカー②の回路がしゃ断されています。

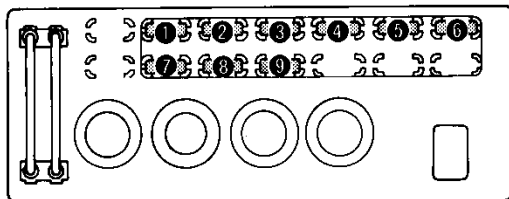
1. サーキット・ブレーカーのボタンを押します。
2. これでサーキット・ブレーカー②の回路が復帰します。



以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキット・ブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ヒューズとサーキット・ブレーカーの受け持つ装置

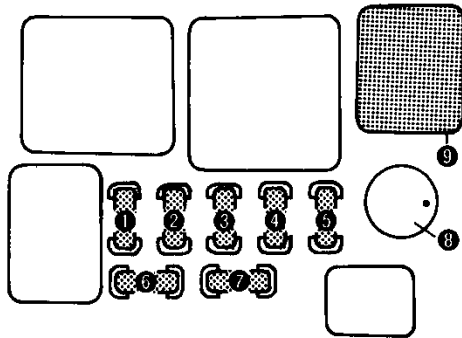
■エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



①	チャージ	7.5A	電熱チョーク、排気コンピューター
②	エンジン	15A	ボルテージレギュレーター、オルタネーター
③	ハザード、ホーン	15A	警音器、非常点滅灯
④	テール・ランプ	15A	尾灯、番号灯、車幅灯、計器照明、ラジオ照明、ヒーター照明、シガレット・ライター照明、グローブ・ボックス・ランプ、チェンジ・レバー位置表示、時計照明
⑤	ヘッドランプ(右)	15A	ヘッドランプ(右側)
⑥	ヘッドランプ(左)	15A	ヘッドランプ(左側)
⑦	EFI	15A	EFIコンピューター、フューエル・ポンプ
⑧	ワイパー	20A	ワイパー&ウォッシャーヘッドランプ・クリーナー
⑨	ストップ	15A	制動灯、オーバードライブ作動表示灯、駐車灯

■運転席足元ヒューズ・ボックス

予備ヒューズは運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーに取りつけられています。



<ヒューズ>

①	ターン	7.5A	方向指示灯表示灯
②	エレクトロニクス リヤ・ワイパー	15A	オーバードライブ、 リヤ・ワイパー&ウォッシャー
③	メーター	7.5A	警告灯類、計器、後退灯、 速度警報ブザー、排気温警告灯
④	ルーム・ランプ	5A	室内灯、時計、電動リモコン・ ミラー、トランク灯、半ドア 警告灯、スポット・ライト、 エンジン・キー照明、バック・ ドア灯
⑤	イグニッション	7.5A	充電警告灯、予熱プラグ、 EFIメイン・リレー、 燃料止めソレノイド
⑥	ラジオ	7.5A	ラジオ、ステレオ
⑦	ライター	15A	シガレット・ライター、 電動アンテナ

<サーキット・ブレーカー>

⑧	リヤ・ウインドウ・デフォグガー(曇り取り装置)
⑨	パワー(電動)・ウインドウ、電磁式ドア・ロック、 電動サン・ルーフ

ランプ類が点灯しないときは……



ちょっと一言

1. ランプ類が点灯しないときは、ヒューズ切れの他、ランプ自体の球切れが考えられます。
電球の交換は、右の各規格にあわせて、同容量のものにしてください。
2. ハロゲン・ランプ(ヨウ素入り電球)は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。
電球交換時に、手などがガラスに触れないように注意してください。
3. ランプ類はすべて12V用をご使用ください。

■フロント側

▶ヘッドランプ

セダン(除くLGツーリング)/ワゴン

白熱灯 ……………65/60W

セダンのLGツーリングとハードトップ

ハロゲン ……………60/55W

バン

白熱灯(外側) ……………37.5/50W

(内側)……………37.5W

▶車幅灯/駐車灯……………5W

▶フロント方向指示灯(兼非常点滅灯)……………23W

▶サイド方向指示灯(兼非常点滅灯)……………5W

■リヤ側

▶方向指示灯(兼非常点滅灯)……………23W

▶制動灯、尾灯/駐車灯……………21/5W

▶後退灯……………23W

▶番号灯

セダン/ハードトップ ……………5W

ワゴン/バン……………7.5W

■室内

▶室内灯……………10W

▶フロント・スポット・ライト……………8W

▶エンジン・キー照明灯……………1.4W

▶グローブ・ボックス・ランプ……………1.2W